

(東京支部だより)

東京支部、屋形船で納涼懇親会を開催

東京支部は、8月6日(金)、恒例の納涼会を開催した。屋形船での懇親会は、10年連続となるが、深川の船宿・富士見から出船するのは7年連続となる。船宿を午後6時30分に出船、絶好の日和のなか、新船「北斎」号で真夏の宴を満喫した。

納涼会には酒匂支部長をはじめ61名に、5名のコンパニオンを加えた66名が参集した。

コースは、運河から海に出て、豊洲埠頭を過ぎ、レインボーブリッジをくぐってお台場に停泊、帰路は勝鬨橋から清洲橋の先のライトアップされた芭蕉像まで隅田川を遡り、戻ってくるという2時間半のコース。

船中の宴は、関根事業企画部会長の司会により開会。初めに酒匂支部長の挨拶が行われた後、高木理事長の来賓挨拶があり、続いて大川最高顧問の乾杯音頭で納涼会がスタートした。

酒匂支部長からは「まだまだシャ業にとって厳しい毎日が続いている。こう暑いと仕事への意欲も薄らぐだろうが、その前に肝心の仕事がない。会社によって仕事量の多寡は違うと思うが、ここにいるほとんどの人が残念ながら忙しくない。せめて今日は仲間同士酒を酌み交わし、日ごろの憂さを晴らしてほしい」との挨拶があった。

来賓の高木理事長からは「昨年、この場で挨拶する際に、折角の機会なので不況の中皆さんが元気になるような良い話をしようとして一生懸命考えたが、結果的に何もなかった。本日はもうあきらめて、事前に良い話を探すこともしていない。7月下旬に、ZSK青年会を中心とする東京湾の船上見学会が開催され、私も参加した。2011年完成を目指して建設中の東京港臨海大橋や、羽田D滑走路など大型建造物を見学したが、ここにも我々のモノ作りの成果がきちんと形になっていく姿を眺めた。シャ業を取り巻く状況は悪いが、いろいろな所に貢献しているシャ業の仕事に誇りを持ってこれからも頑張りたい」との挨拶があった。

引続き、大川最高顧問より「私は9月に77歳になるが、今の猛暑は体にかなりこたえる。皆さんもこの時期大変な思いをしておられることだろう。一向に景気回復の兆しが見えず、しばらくこの不況が続くそうである。しかし今後どんな事態に遭遇しようとも、皆でこうして酒を飲んで苦楽を分かち合い、連帯感を持って生き抜いていこう」との奮起を促す挨拶があり、乾杯の発声が行われた。

その後は、関根部会長の進行により、宴会に移り、飲み放題の酒で喉を潤し、定番である天麩羅、刺身、寿司に舌鼓を打ちながらの歓談と、多数の飛び入りもあってカラオケも交え盛り上がった。

最後は、原副支部長の三本締めにて中締めを行い、帰路に就いた。

以上

東京支部、東京湾船上見学会を開催

去る7月28日(水)、ZSK青年会主催で東京湾の巨大建造物を船から眺める見学会を実施した。当日は高木理事長、酒匂支部長をはじめ20名が参加した。

日の出埠頭を14時10分に出航し、埋め立て人工島の間を縫いながら進み、やがてお目当ての若洲と中央防波堤外側に架かる約2.9kmの橋梁「東京港臨海大橋」の真下を通過、その巨大な骨組み・構造に圧倒された。恐竜と言われるゆえんである。飛行機の飛来を真上に見ながらしばらく行くと、10月完成予定の「羽田D滑走路」の広大な埋立地が眼前に広がる。太陽と風の中、遠景には東京タワーと東京スカイツリーが立っている。「自由の女神があつたらここはアメリカだ」と誰かが言った。大井コンテナ埠頭にはいろいろな船型をしたコンテナ船が停泊していた。「東京湾は厚板がいっぱい」であることを改めて実感した。16時10分帰港、2時間半にわたるクルージングが終了。

以上